

③八頭郡の取り組み

研究主題

「将来への資質・能力の育成に向けた体育学習の展開」

～ 豊かなかかわりと学びを大切にした体育学習 ～

I 研究主題について

平成31年度は、令和2年度完全施行の新学習指導要領の移行期間である。体育学習は、新学習指導要領による学習を先行実施することができる。それに伴い、昨年度までの研究主題を新学習指導要領に基づき、本年度新しくすることとした。

新しい研究主題を設定するにあたり、最も重要となってくるのは、新学習指導要領の目標にも掲げられている「…生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を次の通り育成することを目指す。」の文であろう。現在の児童を取り巻く社会環境は、運動機会の2極化、健康の保持増進と逆行するライフスタイルにある生活実態など、児童の生涯にわたる心身の健康を脅かす状況が見られる。そのような状況において、学校教育において、将来の児童の心身の健康の保持増進に係る資質・能力を育成することが重要となってくる。めざす資質・能力の育成としては、「なができるようになるか」を今まで以上に、より明確にしていく必要がある。そのために、新学習指導要領で育成を目指す「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」という資質・能力が相互に密接に関連して、偏りなく実現されることが重要である。そこで、今年度の研究主題を「将来への資質・能力の育成に向けた体育学習の展開」として設定した。

また、新学習指導要領において目指す資質・能力の育成をめざすにあたり、主体的・対話的で深い学びの実現を通じた授業改善を図りたいと考える。そのためには、児童自ら学習課題の解決に向けた取り組みを促すとともに、様々な人・もの・こととのかかわりを通じて、より深い学習となるようにサブテーマとして、「豊かなかかわりと学びを大切にした体育学習」を設定した。

II 研究の実際

本年度八頭郡体育研究部では、一斉授業研究会は設定しないが、各ブロックにおいて、新しい研究主題のもと、新学習指導要領の趣旨に基づいた研究の視点に沿って授業実践を行っていく。それにより、令和3年の鳥取県小学校体育研究大会に向けた実践及び研究の積み重ねをしていきたい。令和2年度には、各自の研究をもとに、授業研究会を実施して研究を深める計画である。

研究の視点

(1) 「主体的・対話的で深い学びの在り方」の研究

自他の運動や健康についての課題を発見し、解決に向けて思考錯誤を重ねながら、思考を深め、よりよく解決する姿（単元構成の工夫、学びの視点の明確化）

(2) 「運動との多様な関わり」の研究

「する・見る・支える・知る」との学習との関連性（学習の系統性、味方・考え方の具現化）

(3) 「仲間とともに学び合う学習」の研究

関わり合い、教え合い、ICTの活用、言語活動の充実

(4) 「新学習指導要領の目標における評価の在り方」の研究

「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」

III まとめ

今年度は、八頭郡3ブロックにおいて、各自実践を積み重ね、郡の研究集録「八頭体育」及び、県小体研研究集録「あゆみ」、県のホームページへの実践の提供などを行いながら新学習指導要領に基づく学習の在り方について研究を深めてきた。来年度に向けて、今後、年間指導計画の作成及び県小体研研究実践領域について絞った研究を進めていく必要がある。

実践事例①【「わたしたちの体育」を活用した実践】

5年生「陸上運動（走り幅跳び）」の学習を通して

八頭町立郡家西小学校 古田 はるか

1 はじめに

走り幅跳びは、リズムカルな助走から踏み切って跳び、着地までの自己記録を高めたり相手と競争したりする楽しさや喜びを味わうことができる運動である。また、練習の仕方を知り、自己やグループの課題に応じた練習方法や練習の場を選ぶことで、その解決の仕方を考えたり、仲間の動きの変化を伝え合ったりすることで技能の高まりを感じられる。仲間や相手チームとの競争という楽しみ方や、自己記録更新という明確な目標を持って運動に取り組むことができるので、児童の意欲的な活動を期待することができる。

今回の実践では、「わたしたちの体育」の学習の流れや場の設定の活用、タブレットを用いたグループでの学び合いを行い、仲間と共に関わり合うことで記録を高められるように取り組んだ。

2 実践について

(1) 単元の目標

【学びに向かう力・人間性等】

運動に進んで取り組み、約束を守り、助け合って運動をしたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。

【思考力・判断力・表現力】

自己(チーム)の能力や課題に適した場を選んだり、考えたりするとともに、競走や記録への挑戦の仕方を工夫できるようにする。

【知識・技能】

リズムカルな助走から踏み切ることができるようにする。

(2) 学びへの働きかけ（指導の意図）

《主体的・対話的で深い学び》

- 単元の最後に記録会を行うことを伝え、それに向かうための練習方法や場を考えさせたり選ばせたりする。
- 毎時間の始めにわたしたちの体育の「やってみよう」などの動きを取り入れ、リズムカルな助走からの踏切りや安全な着地など、走り幅跳びにつなげられるようにする。
- 活動②では、学習のはじめに自分たちの課題と、練習方法について話し合う時間をとり、めあてをみんなで共有して学習に取り組めるようにする。

《仲間とともに学び合う学習》

- リズムカルな助走やかがみとびのポイント、課題に応じた練習の場の工夫などを掲示し、教え合いのもとにする。また、学習の中で見つけたポイントを記入していくことで、学びを共有していく。
- 児童同士の教え合いや相談など、言語的な活動が充実するようにタブレットを活用して自分の動きを確認し、「わたしたちの体育」の動きのポイントと照らし合わせて課題を解決する。

《新学習指導要領の目標における評価》

- 学習に対して楽しく取り組んだり、明るく挑戦したりする雰囲気づくりをするため、記録測定前のかげ声や記録達成のハイタッチなどを大切に取り組ませる。

(3) 単元の流れおよび評価の計画

		1	2	3	4	5	6
主なねらい		学習の進め方を理解しよう	リズムカルな助走から力強く踏み切って、走り幅跳びをしよう。			自分の記録を伸ばしたり、仲間と競争したりしよう。	
核となる学習内容		<ul style="list-style-type: none"> 学習のねらいと進め方 用具等の使い方 きまり、安全面 	<ul style="list-style-type: none"> かがみ跳び 7歩助走、9歩助走 力強い踏切り 両足着地 			<ul style="list-style-type: none"> スタート位置の見つけ方 場を工夫した競争 	
学習活動		<ul style="list-style-type: none"> 学習のねらいと進め方を知る 用具等の使い方について知る。 きまり・学習の場・安全面について知る。 「やってみよう」を行う。 ふりかえり 	助走・踏切り・着地への動き作り (輪とび・3歩はばとび・グリコじゃんけん競争・だんボール箱とび)				
			活動①「リズムカルな助走からふみ切ろう」			活動②「自分の記録をのばしたり、仲間と競争したりしよう。」	
			<ul style="list-style-type: none"> 走り幅跳び かがみ跳び ふりかえり 			<ul style="list-style-type: none"> 目標記録設定 記録測定 ふりかえり 	<ul style="list-style-type: none"> 記録会 ふり返り
評価の計画	知			①	①		②
	思		①	①	③	③	
	学	①	④		②	②	③

具体的な評価基準	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	<ul style="list-style-type: none"> ①自己（チーム）の記録の伸びや目標とする記録の達成を目指したりしながら、リズムカルな助走から力強く踏み切って跳ぶことができるようにする。 ②試技の回数や踏切りゾーンの設置などのルールを決めて競争することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ①リズムカルな助走のポイントを知り、自分（チーム）の力に応じた課題を選ぶことができる。 ②課題の解決の仕方を知り、提示された資料や教師の助言から、自分（チーム）の力に合った練習方法や練習の場を選ぶことができる。 ③友達の動きを見て、アドバイスしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ①走り幅跳びに進んで取り組むことができる。 ②約束を守り、友達と助け合って練習や競争をすることができる。 ③勝敗を受け入れて活動することができる。 ④場の危険物を取り除いたり場を整備したりするとともに、用具の安全に気を配ることができる。

3 指導の実際

(1) 掲示物の活用

児童向けの単元計画や跳び方のイラスト、用具や場の使い方などを掲示し、児童が見通しを持って学習できるようにした。また、児童から出た言葉で跳び方のコツを記入することで、共有したコツを意識して練習したり友達の動きを確認したりできるようにした。



(2) ICTの活用

タブレットの再生遅延アプリ「追いかけて再生」を使って、自分や友達の動きを確認した。助走から着地までの動きをすぐに確認し、グループの友達同士で教え合えるようにした。また、手本となる児童の動きを別のタブレットで録画し、いつでも再生して確認できるようにした。

また、給食時間に NHK for School の「はりきり体育ノ介」の走り幅跳び動画を視聴し、走り幅跳びに必要な動きのポイントや目標とする跳躍姿勢を確認した。



(3) グループでの学び合い活動

50m走のタイムで分けたグループを組み、跳んだ距離に応じて決めた得点をグループで競った。得点を高くしようと友達へのアドバイスや応援など関わり合いながら記録の向上に取り組んだ。

(4) わたしたちの体育の活用

毎時間の始めには、力強い跳躍やリズムカルな助走につながる輪跳びや3歩幅跳びなど、「やってみよう」に載っている動きを取り入れ、走り幅跳びに必要な感覚を楽しみながら養うことができるようにした。また、学習の終わりにはふり返りを記入し、学習の成果を捉えさせた。



4 成果と課題

成果

○児童が自分たちで単元計画や掲示物を確認しながら進んで学習することができた。

○ICTの活用により、動きの良い点や改善点を客観的に把握し、助走、踏切、空中姿勢、着地のどこを改善したいか自己決定して練習することができた。また、手本となる動きを再生して確認することで、自分の動きとの違いに気付かせることができた。

課題

△跳ぶことのくり返して練習方法が単調になってしまった。個人の課題解決に向けた複数の練習方法や課題毎にグループを編成し直すなどの工夫が必要だった。

△課題解決に向けた踏切の場の設定が不十分だった。

△グループの得点に差が出てしまい、競争意欲が低下したグループがあった。記録以外に得点する工夫が必要だった。